

# 平成26年度学校自己評価システムシート（さいたま市立大宮西高等学校）

目指す学校像	確かな学力と豊かな人間性を育成して、自己実現を図る。
--------	----------------------------

重点目標	1 生徒が学力の向上と定着を実感できる学習指導の充実 2 心身ともに健康でけじめある生活を送れる生徒の育成 3 生徒自ら進路を選択しその実現に向けて努力する姿勢の確立 4 開かれた学校づくりの推進(情報発信の充実と活用)
------	---

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価（2月5日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成 次年度への課題と改善策	
1	○生徒の学習意欲の向上と学習習慣の確立を目指し様々な取り組みを実施してきたが、今後ともそれらの継続、より一層の工夫が必要である。学習環境の整備、授業の改善、授業時間の確保に努める。課題学習の充実などから予習復習の習慣を身に付けさせるとともに、家庭学習の定着を図る必要がある。	学力の向上を目指したより良い授業展開のための取組 生徒の意識改革を呼び起こすような学習指導の取組	○授業評価や授業研究を通して授業の工夫や改善を行う。 ○生徒の学習への興味関心を高め、積極的に授業に参加させるための工夫。 ○補習等を通して個別指導の充実を図る。 ○週末課題など各教科からの課題の提出と、その確認テストを実施することにより、家庭学習の習慣化を目指す。 ○校内の整理整頓・落ち着いた学習環境づくり。 ○教科主任会を通じて、教科横断的な全体指導像の共有。 ○英語能力判定テストの導入。各種検定試験を推奨。 ○授業時間の確保、チャイム始業。	○授業に積極的に取り組む生徒は増加したか。 ○校内試験、校外模試の成績優良者は増加したか。 ○生徒のニーズに合わせた補習講座が開設されているか。 ○家庭学習の定着は図れたか。 ○校内美化が保たれているか。 ○教科間の指導体制に共通の方向性が示されたか。	○外部機関を利用した学力到達度調査で生徒の学習理解度を調査し、学習指導に役立てた。 ○さいたま市立高等学校合同授業研究会において国・数・英の研究授業に参加し、他校の授業の工夫や改善の取組を研修した。 ○家庭学習の定着を図る国・数・英の週末課題・単元課題の実施が常態化してきた。(1・2年)。 ○グローバルスタディールームには不足していたタブレット端末を補充したこともあり、生徒の利用が定着した。自学自習の環境がさらに充実した。 ○1年から3年まで各段階に応じた補習講座を開設し、熱心な進路補習を行った。	A	○年2回の学力調査の活用法を学校全体で共有するとともに、有効な学習指導法を見出ししていく。 ○帰宅後の時間を工夫した、家庭学習時間の確保を促す。 ○生徒にとってより良いグローバルスタディールームの活用方法を検討する。 ○新教育課程の運用面の問題点の洗い出しと、対処方法の検討を引き続き進めていく。
2	○日々の学校生活や学校行事を通して自分を見つめ、他者を知る機会とする。そして人を思い遣る気持ちや他を尊重する態度を身に付けさせる。 ○明るく元気な生徒が多い反面、ややだらしない部分があり、その雰囲気が能力の伸長を妨げている感がある。けじめのある生活を送れるよう指導が必要である。 ○登下校時の交通安全、マナー指導や事故防止に努め、傘さし運転をなくす。	豊かな人間性の育成と基本的な生活習慣の確立を目指す生徒指導の取組	○基本的生活習慣の確立。 ・時間や規則を守る。 ・服装・頭髪指導、遅刻指導の充実。 ・スケアード・ストレイト教育技法を用いた交通安全教室の実施。 ・登下校時のマナーアップ、自転車点検。 ・三橋（3）交差点指導等の充実。 ○豊かな人間関係の育成。 ・学校行事への積極的な参加。 ・部活動の活性化。 ・国際教育の推進。 ・外部講師を招いての様々な講話の実施。 ○心身ともに健康な生徒育成。 ・教育相談(スクールカウンセラーによる)の充実。 ・個別指導の充実、面談等の実施。 ・家庭、関係機関等との連携を図る。 ○特別支援教育の推進。	○服装、頭髪指導の効果は上がったか。 ○休み時間と授業の区別、部活動と家庭学習の両立はできているか。 ○遅刻数は減少したか。 ○交通事故件数は減少したか。 ○傘さし運転者数は減少したか。 ○部活動や学校行事の活性化は図れたか。 ○豊かな人間関係の育成。 ○講話・講演を計画的に実施できたか。 ○いじめや不登校などの情報を共有し、指導に活かされたか。 ○国際教育を推進することができたか。	○頭髪については、各学年で継続的に指導を行い、一定の成果が出ている。 ○遅刻指導は各学年ごとに実施しているが、減少したかは3月末の統計を待つ。 ○交通安全については、5月にスケアード・ストレイト教育技法を用いた指導を全校で実施した。 ○昨年度より傘さし運転をなくす指導をおこない、多くの生徒がかっぱを着用するようになった。 ○学校行事に生徒は熱心に取り組む、生徒の手で企画・実行され、伝統として引き継がれている。 ○1年生に対して、ブログやツイッターの危険性についての指導を入学早々実施した。 ○運動部・文化部とも熱心に活動しており、全国大会・関東大会に出場を果たすなど顕著な成績を残した。 ○西高独自にいじめや命についてのアンケートを実施したり、生徒との面談や特別支援教育の委員会を多く開催し、情報を共有したり、生徒の指導に役立てることができた。 ○国際教育については、長期、短期の留学派遣、受け入れが増えた	B	○基本的生活習慣の確立と態度を粘り強く育成していく必要がある。 ○頭髪・服装をきちんとさせ、けじめある行動がとれる生徒を育成する。 ○数分の遅刻者を減らす指導が必要である。 ○マナーアップのためには、定期的に校外の道路で立哨指導が必要である。 ○傘さし運転をなくすため指導を継続し、下校時がかっぱを着用するように指導したい。 ○いじめの実態を把握するとともに、生徒ひとりひとりに目を向け、様子の変化を観察したり情報収集をすることによって、いじめや自殺予防をする。 ○講話や講演を計画的に実施する。 ○生徒減少にともない、様々な行事の運営方法を検討していく。
3	○入学時より多くの生徒が進学を目指し、計画的に取り組んでいる。しかし、その一部に具体的に取組むことが遅れ、実力を発揮できないままの生徒がいる。そのため早い段階からのきめ細かい進路指導を繰り返し行う必要がある。	生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路指導の取組	○進路指導に伴う個人面談の充実。 ○ガイダンス機能の充実。 ○卒業生からの進路アドバイスの利用。 ○進路の手引きや各種進路資料の整備と進路情報の提供。 ○職員の大学・短大説明会への参加。 ○実力テストの実施を通して進路指導の充実。 ○土曜進学セミナーを通しての進学指導。 ○受験サブリを通しての進学指導。 ○生徒の大学・短大見学の推進。 ○新入生対象、学習法ガイダンスを開催。 ○センター試験の促進とセンター試験対策の実施。	○面談等を通し生徒の進路意識の向上を図れたか。 ○進路情報の提供が適切に行われているか。 ○学年と進路指導部との連携が十分に図れたか。 ○土曜進学セミナーや受験サブリへの参加で生徒の受験意識が高まったか。 ○生徒の進路希望に添った補習講座が平日行われているか。 ○進路希望を実現させた生徒は増加したか。	○生徒への個人面談を年3回以上実施し、個別の進路相談を恒常的に行うことができた。 ○休業日を利用した原則全員受験による模擬試験や外部講師を招いた土曜進学セミナーやセンター試験対策ゼミを積極的に実施し、生徒の進路選択意識を高めた。 ○昨年導入したオンライン予備校用に、今年度は不足分のタブレットを整備するなど生徒の学習活動や受験対策がより充実した。受験サブリ利用者は130名を超えた。 ○学年との連携のもと、1年次のキャリア教育を通して文理選択の決定指導、2年次のオープンキャンパス参加や卒業生との懇談会など進路志望の早期決定指導、3年次の分野別ガイダンス等を行った。 ○一般入試受験者が増加し、AO/推薦等で進路決定した生徒にもより早くからセンター試験の受験準備に取り組むように指導した。	A	○生徒の進路希望を実現させる進路指導を継続していく。 ○外部模擬試験の有効利用(事前・事後指導の充実)を進める。 ○土曜進学セミナー参加者および受験サブリ利用者の増加をめざす。 ○AO入試や推薦入試に適切に対応するための教職員間の情報の共有化を図る。 ○センター受験も含め、進路決定者に対する入学後に向けての学習指導をより充実させていく。
4	○PTA、地域等の連携を密にする取組、HPの更新やメール送受信による連絡など順調に進歩している。新たな情報通信機器を用いた学校からの情報提供・収集システムがスタートしたが、運用面での課題があれば適切な対策を講じる。	開かれた学校づくりの推進、情報の発信の充実と活用	○保護者が参加しやすい公開授業の実施。(保護者、中学校との連携を密にする) ○PTA活動の充実。支援態勢づくりを図る。 ○HP等各種方法による中学校向け情報の提供。 ○保護者への新メール配信システムによる、情報の提供・収集をさらに推進する。 ○双方向のやり取りができるポータルサイトの有効活用。	○保護者への情報提供の充実は図れたか。 ○中学生、その保護者の学校説明会、学校見学会への参加数は増加したか。 ○保護者が参加可能な学校行事への保護者の参加数は増加したか。 ○メール配信システムの利用率アップ。 ○保護者や地域からの要望を活かす指導は行われたか。	○新メール配信システムにより保護者に対してこれまで以上にきめ細やかな情報提供ができた。 ○欠席等の連絡を電子化することによって、保護者、学校とも事務処理の利便性が上がった。 ○学校説明会の内容を、本校生徒の様子をよりダイレクトに伝えるよう工夫し、多くの中学生およびその保護者から高い評価を得た。 ○HPを随時更新し、よりわかりやすい情報発信を心がけた。	A	○欠席等の連絡については電子化によるものだけでなく、クラス担任等によるきめ細やかな対応を心がける必要がある。 ○学校説明会のアンケート等を分析し、より良い学校説明会の形を検討する。 ○PTA活動の更なる組織間連携による効率化のもとでの充実をめざす。

学校関係者評価
実施日 平成27年2月16日
学校関係者からの意見・要望・評価等
○グローバルスタディールームを生徒の自習に開放しているのは大変良いこと。 ○早朝利用など開放時間を拡大するとともに、利用している生徒からの相談に教員が常時対応するなどサポート体制を強化したらどうか。 ○他校の授業参観は自校の授業改善に大いに参考になるだろう。国際教育に力を入れている県立高校にも多い。市立、県立の枠を越えて情報を交換したらどうか。 ○中高一貫教育に期待している。
○生徒が豊かな発想を持って、学校行事等に自主的自発的に取り組んでいる。「生徒指導」などにおいても、規則の押しつけではなく、生徒の豊かな感性を生かし自発的行動を促すような取組を検討したらどうか(例：傘差し運転防止に向けた「思わず着なくなるかっぱのデザインコンテスト」→商品化) ○文化部の交流については、市立高校間で文化祭に相互出展するなど、多くの生徒・保護者が集う場所を活用したらどうか。 ○昔に比べて西高生はよくなった、という評価と共に他校の生徒等の比較検討による評価も必要。 ○26年度の国際交流協会の催しに延べ7名の西高生が参加した。グループ討議で積極的に発言するなど大活躍で頼もしさを感じた。今後も活用をお願いしたい。 ○インターアの韓国交流やアメリカへの交換留学生など予定されており、将来に大いに期待できる。
○内発的、自発的な進路指導を実施している。 ○進路選択において卒業生の体験談は参考になるだろう。国際交流協会でも、外国人のための高校進学ガイダンスを実施しているが「先輩」との交流コーナーは大変人気がある。 ○グローバル人材の育成とは、価値観の違いを認めながら自己のアイデンティティをもち、共存・共栄できる人材を育成していくことである。西高生には他校の文化祭や幅広い人々との交流をとおして横との比較を感じてもらいたい。すばらしい体験が出来ると思う。
○西高と地域住民との合同避難訓練は出来ないか。大人が働きに出ている昼間の災害対応で、高齢者の避難誘導など、地域の高校生に大きな期待が寄せられている。地域の自治会と連携した訓練が有効。生徒にとっては、自身の社会貢献を認識できる機会になるのではないか。 ○同様に、文化部の生徒が地域のケア施設で書道、絵画等を指導したらどうか。多面的な教育効果が期待できるのではないか。

